

5 - 3 伸縮ワイヤーとバイクの固定接続

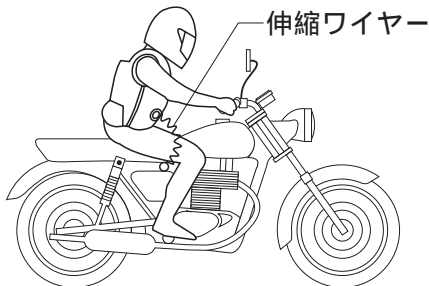
接続方法、接続箇所は各種バイクにより異なります。乗車時は様々な状況によりライダーの動きが変わります。その場面を十分想定して、誤操作による作動が起こらないよう、伸縮ワイヤーの長さ、バイクへの取付け位置を決めて下さい。又、不適切なセッティングにより、乗車時に誤って伸縮ワイヤーに強く触れた際作動させてしまう事も予想されます。詳しくは 別冊アクセサリ取扱説明書 参照。

警告 1. ワンタッチリリースから取りはずした伸縮ワイヤーが、エンジンなどの高熱の部分に触れ、伸縮ワイヤーを破損させたり、バイクに損傷を与えることが予想されますので、使用しない時は、伸縮ワイヤーを運転の妨げにならないようにして下さい。又、ヒットエア付ジャケットと接続しないで走行する場合も同様です。伸縮ワイヤーが車輪に絡み付くなど、重大な事故につながる恐れがあります。この様な事が予想される場合は伸縮ワイヤーをバイクからはずして下さい。

2. ヒットエアの作動時、キーボールが抜けた時に伸びた伸縮ワイヤーが縮む際に、伸縮ワイヤーの先に付いているキーボールやワンタッチリリースなどが、タンク他各部に当たって損傷を与える事があります。

注意 3. 伸縮ワイヤーとバイクの接続が不完全の場合、伸縮ワイヤーが伸びきった状態で、その接続がはずれてしまい作動しません。

注意 4. 伸縮ワイヤーに異常(こすれ傷、こげあと、めくれ、ヒビ等)が発見された場合はすぐに新しいものにお取り替え下さい。



作動時及び、作動後の注意

着用したヒットエア付ジャケットが作動し膨らんだ状態になった場合、以下の点に注意して下さい。

1. ヒットエア付ジャケットは、特に首を保護するため、膨らんだ際首回りに圧力がかかります。そのため、着用しているヘルメットのおごひもがとれにくくなったりする場合がありますが、その際は首もとのファスナーをすぐに下げて下さい。
2. 現場の状況に合わせて慌てずに、ファスナー、バックルをはずして脱衣して下さい。
3. 事故等により現場が危険な場合、安全な場所へ避難してから脱衣して下さい。
4. 瞬時に膨らんだヒットエア付ジャケットは、身体に多少の圧力がかかりますが、ガス抜きバルブ(P 13 写真A)から、徐々に(外圧により変わりますが、通常5～10秒)ガスが抜けていくようになっています。事故により膨らんだ状態で車両等に挟まれたり、圧迫をうける状態になっても、落ち着いて行動して下さい。
5. 膨らんだ気室が、大きな衝撃により破損した場合は、気室全部のガスがすぐに抜けてしまいます。

注意 6. ガス抜きバルブの穴の中に物を詰めたり、入れたりしないで下さい。正常な作動をしなくなります。

注意 7. 走行中において何らかの原因により誤って作動してしまった場合は、慌てず、すみやかに安全な場所へバイクを停止して適切な処理をして下さい。そのまま走行しますと、膨らんだ気室等によって大きな風圧を受け、不安定な状態となり大変危険です。ヒットエア付ジャケットを脱衣して移動して下さい。

注意 8. 作動の際、外傷の出来たヒットエアは、取扱店等でメンテナンスチェックの上、カートリッジポンペを新しいものに取り替えて再びご利用下さい。著しい外傷及び、部品破損の場合は、再生出来ない場合があります。

- 注意** 9. ツーリングなどで一度作動したヒットエア付ジャケットを、やむおえずお客様が再生させる場合は、以下の点に注意して下さい。
- ヒットエア付ジャケットに外傷(キズ・穴)等がないか確認する。
 - 作動した時に、正常(外傷、気室の破裂により、すぐにガスが抜けなかったか)であったか確認する。
 - 予備のカートリッジポンペは、適合した大きさの未使用のカートリッジポンペである事を確認する。

上記を確認した上で、問題がなければ、お客様の責任に於いて再生して下さい。異常がある場合は、正常な作動をしない事があります。詳しい再生方法(7. 作動後の再生 P 23～27)を参照して下さい。